



IR day2024 セッション3
「IT戦略(エンタープライズアーキテクチャ)」

NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社
2024年9月13日

Copyright © 2024 NIPPON EXPRESS HOLDINGS, INC., All rights reserved.



経営戦略に伴走するIT戦略

基本方針

- ・ IT戦略は、100周年に向けて進む長期ビジョンを実現するため経営戦略と同じ目線で実行
- ・ マイルストーンを設けて事業環境の変化に対応するためにローリングしつつ計画を実行する。



経営目線の課題

サステナビリティ経営
グローバル市場での成長加速
日本事業の再構築



業務を支えるIT

ESG関連機能を急速に拡充中
急務となっているフォワーディングシステム
各国・各社にサイロ化したシステム

IT戦略の統合

経営・業務・ITの課題
を踏まえ将来像を設計



業務目線の戦略

短期・長期の目線で
優先課題を設定し、
投資・リソースの集中

2024年9月の現在地



2028年中計と一致

中計のゴールに向かい
実現すべき着実に完成



2037年 100周年には
グローバル市場で存在感を持つ
ロジスティクスカンパニーへ

1

2024年9月13日開催 IR day

Copyright © 2024 NIPPON EXPRESS HOLDINGS, INC., All rights reserved.

NEX NIPPON EXPRESS
We Find the Way

2037年に創立100周年を迎えるにあたり、サステナビリティ経営や、グローバルおよび日本市場における事業強化などの経営方針を掲げています。

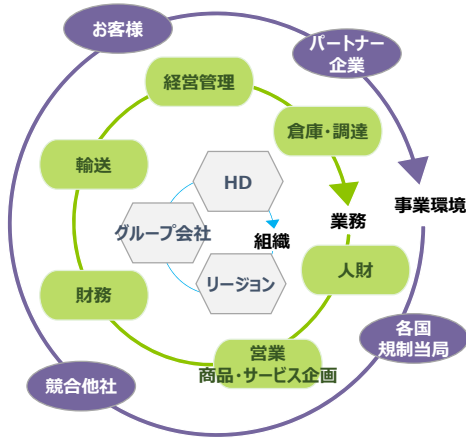
ITとしても、「業務を支えるIT」という従来の立ち位置から前進、進化し、経営方針で掲げる長期ビジョンの実現を支える、伴走するIT戦略を策定し、実行していく必要があります。

現在は、業務とITが一体となったシステム将来像の設計、そのロードマップの作成を進めております。

ITを取り巻く環境と課題

ITを取り巻く環境

- ・ 自社、外部共に事業環境は複雑化し、必須対応事項が加速的に増加している。
- ・ ITの整備が後手に回ると人財確保・最新化への追従で大きく溝を開けられる。



環境変化とITの潮流

外部環境

事業リスク・経営ビジョンの進化に対応

- ・ 事業環境・競争環境の変化は激しく、事業環境に適合するために柔軟なIT基盤が必要
- ・ ESGをはじめとしたマテリアリティの達成に向けて、グループ丸となったガバナンスが必要

IT環境

ITの重要性の加速、デジタル技術の進展

- ・ ソフトウェアのライフサイクルの短縮、巨大ベンダーの刷新ニーズにより慢性的な人手不足
- ・ 生成AI・センサー技術の隆盛による新たな技術への適用が急務

ご承知の通り、ITを取り巻く環境は年々複雑化しています。いま求められているのは、従来の垂直分業的なITではなく、技術や市場の動向に対する感度をより高めて、市場の流れに遅れないように、いち早くITサービスを展開していくことです。

このページに示すように、事業環境、業務、組織は相互に影響しあっています。グローバル事業において競合企業と競っていくためには、業務のつながりに加えてグループ・グローバルとの連携も強化する必要がありますが、そのためにはITの重要性も加速しています。

IT全体を見える化、把握し、内外の環境変化に対応できるIT基盤を整備していく必要があると考えています。

これまでのNXのITは業務機能に紐づく形で配備されてきた (AsIs)

現状のIT

- NXにおけるIT整備は業務機能に特化してきたため非常に複雑になっている。
- 業務要望にきめ細かく対応できている一方で、経営戦略に追随する俊敏性が弱点。

NXにおける業務別のシステム配置



コスト削減の課題

- **サイロ化**：NXのシステムは業務個別化で進んできたため、**業務機能・システム機能が標準化**されていない
- **システムの分散・固有化**：サイロ化に伴い、適用技術や対応業務スコープなどが揃っておらず、結果として**類似システムが散見**される

売上貢献の課題

- **End To End のサービス**：サービス品質の向上、速やかな製品投入を行うためのシンプルな**システム連携の実現**が急務
- **トップラインを伸ばす施策**：重点顧客・重点事業を推進するために、グループ・グローバルの**業務基盤の整備**が急務

3

2024年9月13日開催 IR day

Copyright © 2024 NIPPON EXPRESS HOLDINGS, INC., All rights reserved.

NEX NIPPON EXPRESS
We Find the Way

NXのITについて、まずは我々の強みと弱みを把握することから着手しました。これまでは業務とITが密接に連携してきめ細かく個別に対応することで、顧客やユーザの満足度を高めることに注力してきました。これはNXの競争力の源泉となっていることも事実であり、全てを否定するものではありません。

一方、これらはITの複雑化を招き、業務間の連携や類似機能の重複といった可能性もあり、改善の余地があると考えております。

これはEnd To End のサービス提供の障壁となる可能性があります。またNXがグローバルで存在感を示していくためにも、グループ・グローバルの連携は欠かせないものであり、ITにおける過度の個別化が戦略の実効性を妨げる可能性もあります。

エンタープライズアーキテクチャ（以下EA）は全体最適と戦略的個別最適を両立

NXのEA

- 競争性の強味を残しつつ、全体を俯瞰した視野で最適化する
- トップラインを伸ばす競争優位性は差別化要因として柔軟さを確保する。
- コスト削減にむけ、経営資源の最適配置に向けて標準化・集約化を進める。



ビジネス競争力重視
戦略的個別最適

- NXの営業力を生かす セールスイネーブルメント
- 製品・サービスラインの拡充 倉庫システムの差別化
- グローバルフォワーディングの各国展開
- モーダルコンビネーションの実現

全体整合重視
全体最適

- 堅牢・統合された会計システム
- 類似機能の集約を進めることで保有IT資産の最適化
- サステナビリティ経営に必要な情報集約
- 導入IT製品・システムの統合/ノウハウ蓄積
- ガバナンスの実践（グループ・リージョンの取組み）

エンタープライズアーキテクチャー、EAは人、物、金の観点から全体最適を目指し、業務とシステムの設計図を作成する手法です。

NXのEAでも、全体を俯瞰した視野に立ち、標準化や集約化により全体最適を目指します。一方で、各業務においては、お客様ごとのニーズへのきめ細かな対応力を、競争優位性に変えてきたという歴史があります。

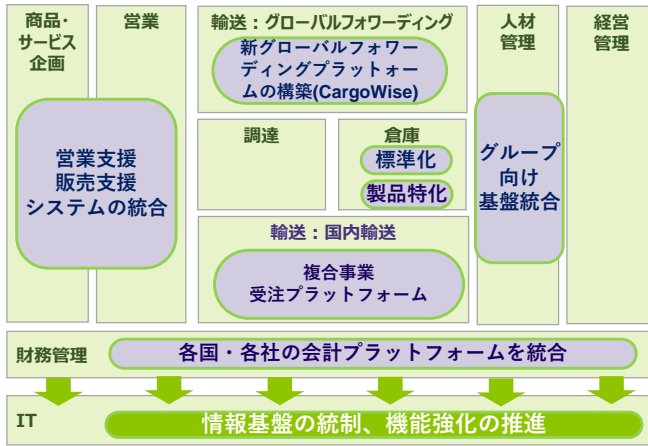
EAにおいても、全体最適の一辺倒で進めるのではなく、競争優位の源泉となる個別の事情も踏まえて、事業拡大に貢献する部分は戦略的個別最適としてバランスよく織り交ぜながら実践していきたいと考えています。

業務の将来像を見据え、着工中の取組みを滞りなく進める (ToBe)

IT戦略の要諦

- ・ 事業環境に速やかに対応するため徹底的なプラットフォーム化・業務標準化に着手
- ・ 売上拡大を支えるITであり続けるために業務施策の早期実現を目指す

NXにおける業務別のシステム配置



End To End サービスの拡大に向けて

- ・ 業務基盤の統一による体系的な営業戦略の実現
- ・ 新グローバルフォワーディングシステム導入を通じたオペレーションの高度化
- ・ 国内輸送の受注プラットフォーム化で、販売力・オペレーション・収益性の向上
- ・ 倉庫業務における製品ラインの拡充と標準化によるコスト削減

業務標準化・グループシナジー

- ・ 業務集約と統合的な会計基盤の展開
- ・ グループを通じた人財基盤を導入し、タレント発掘の促進

5

2024年9月13日開催 IR day

Copyright © 2024 NIPPON EXPRESS HOLDINGS, INC., All rights reserved.



IT戦略としてのポイントは、徹底的なプラットフォーム化と業務標準化によって、事業環境の変化に速やか対応を可能とすることです。業務間での分断やモードごとに個別化されていた部分は、システムの統合や共通プラットフォームの構築を進めていきます。

輸送領域については、グローバルフォワーディングプラットフォームとしてCargoWiseの導入を決定いたしました。また、国内輸送に関しては、モード横断プラットフォームを構築することで、顧客や案件の取り漏れを防ぎ、売上に貢献する業務基盤を提供する計画としています。

一方で、これまで競争力の源泉となっていた部分においては、戦略的個別最適を継続し、推進します。例えば、倉庫システムは、分散した機能をグローバル標準システムに統合することでコスト削減を狙う一方、半導体・ライフスタイル・テクノロジー・モビリティ・ヘルスケアの5つの領域で、業界に特化した機能の整備を進めております。

データの利活用がアプリケーションの価値を最大化する

データの整備方針

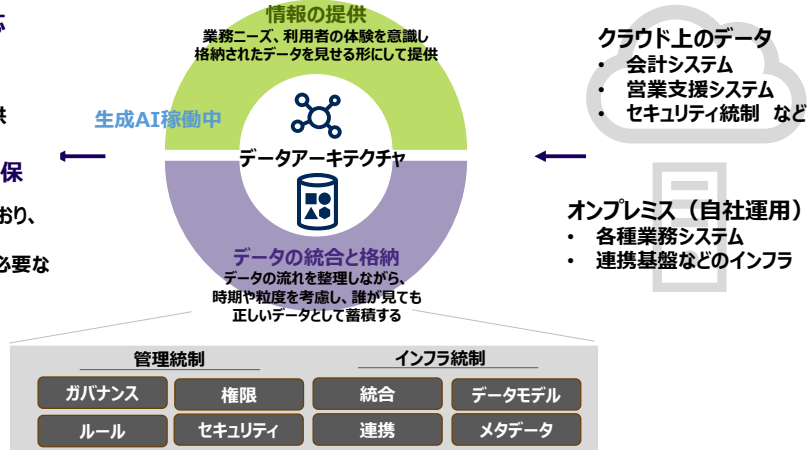
- ・グローバル共通のデータ活用プラットフォームとして、NX データステーションを整備している。
- ・データアーキテクチャの活動により、データを統合し利活用範囲を広げることで先進技術を搭載するDXにつなげていく。

業務ニーズへの対応

- ・ 業務施策の実現
- ・ 分析ニーズに対応
- ・ システム横断情報の提供

利用者の利便性の確保

- ・ 見るべき場所が決まっており、同じ情報が提供される
- ・ 適切な権限管理のもと必要な情報にアクセスが可能



6

2024年9月13日開催 IR day

Copyright © 2024 NIPPON EXPRESS HOLDINGS, INC., All rights reserved.

NEX NIPPON EXPRESS
We Find the Way

NXのEAでは、これまで述べてきた通り経営・業務に焦点を当てています。インフラストラクチャー、アプリケーションに加えて、データもITにおける重要な要素の一つです。業務間の情報を集約することで、業務の高度化のきっかけになる気づきや、これまで多くの人手を介してのみ知ることができた情報へのニーズに応えていきたいと考えています。

データ分析やデータ予測の必要性が業務観点で認識されて久しいですが、NXでもNXデータステーションというデータプールを構築し、日々進化させています。また、NXではNX Brainとして生成AIが稼働しています。生成AIを活用するためには学習するデータが不可欠なので、その観点でもデータ整備を進めております。

データアーキテクチャを整備する活動の中では、データを統合し、その価値を最大化することで利便性を上げ、利用者に気付きを与えるなど活用範囲を広げることで、生成AIのみならず最新の技術を搭載するDXにつなげていきたいと考えています。

EAによる計画統合と実践で業務・ITの最適化を推進する

EAで目指すもの

- ・コスト削減・利益貢献の循環をめざすITであるために、EAによる最適化を継続して回す。
- ・リーン化（無駄の排除）で余力の創出とシステム標準化を進め、攻めのITを速やかに実践する。



7

2024年9月13日開催 IR day

Copyright © 2024 NIPPON EXPRESS HOLDINGS, INC., All rights reserved.

NEX NIPPON EXPRESS
We Find the Way

NXのEAは、2022年より足掛け3年の活動で最適化の計画立案を進めてきました。今後5年間程度をスコープとした将来像、そのロードマップが出来上がってきました。今後はそのロードマップに沿った実行フェーズとなります。

ITコストの高騰や人財の枯渇など、NXのみならずIT業界全体としての問題に対処しなければならないですが、プラットフォーム化による徹底的なムダの排除や、既存の業務プロセスの見直しをコスト削減の観点から実践していきたいと考えています。

それを原資として、経営と業務に伴走するITとして最適化された業務基盤を提供することで、事業拡大への貢献を意識し、M&Aをはじめとした施策にも伴走できるような攻めのITを実践していきたいと考えています。



本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却等を勧誘するものではありません。
また、本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での弊社の判断であり、
その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告無しに変更されることがあります。
万一、この情報に基づいて、こうむったいかなる損害についても、
弊社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。